

第2期武蔵野市環境啓発施設運営会議（第1回）議事要録

日 時 令和3年7月29日（木）開会 午後5時30分 閉会 午後7時30分
開催方法 Web会議システム使用によるオンライン開催
参加者 委員9名、事務局8名
小澤委員長、鈴木副委員長、光田委員、宮坂委員、中西委員、村井委員、
新保委員、越智委員、奥野委員

1 開会挨拶

- (1) 委員紹介（委員長、副委員長、各選出委員）

2 議事

- (1) 施設の貸出について
- (2) 食品ロス削減の取組について
- (3) 施設評価に基礎とするアンケート調査について

3 報告事項

- (1) 環境フェスタについて
- (2) 環境展実施状況について
- (3) 環境啓発事業費補助金応募状況について
- (4) 環境の学校実施について
- (5) 市関連事業について
- (6) 運営会議スケジュール（案）

4 その他

委員意見・質疑及び事務局回答

発言者	要旨
2. (1) 施設の貸出について	
事務局	資料1について説明。施設の貸出について、設置条例の目的に合致した個人、団体へ貸し出される。貸出対象の場所は資料の2頁を参照。貸出の条件として、エコ re ゾート、クリーンセンターに団体、または個人の登録をしてもらい、貸出の際はエコ re ゾートのディレクター、コーディネーターによる場所や日時の調整が入る。使用料は目的に合致する利用は無料だが、目的外利用の場合は使用料を徴収する。市内に在住、在学、在勤の方であれば、市外登録者よりも一か月早く予約ができる。課題として、芝生広場の貸出において、芝生の養生が必要なため、貸出に制限を設ける検討が必要である。
委員	6の使用料のところ、5番の目的外使用というのは、具体的にはどういうケースが想定されるのか。例えば、登録されていない方などか。職員によって調整されるので、目的外の使用というのはないような気がするが。
事務局	例えば、撮影等を想定している。また、全く環境とは関係ないが、例えば、町内会の運動会的なことなども想定されるのかと思

	う。
委員長	丁寧に芝生の養生をしているようだったが、養生が一番大変かもしれない。
委員	芝生広場、どんぐり広場はエコ re ゾートの中でもすごく期待されているものなので、使い方としては、例えば、子どもたちを対象に、スタンプラリーなど、遊びながらゲーム感覚で環境を学べるようなことをお願いしたいと思う。
事務局	子ども中心に、遊びながら学べるような施設というのが大切だと思う。ご提案のスタンプラリーのような形の中でクイズやゲームをしたり、そういう使われ方を考えていきたいと思う。
委員	芝生に関して、養生のためにコーディネーターなりディレクターさんとの相談は必要になると思う。例えば、イベントで予想される人数にもよるが、大人数では雨の降った後の芝生が締め固まってしまうこともある。自然条件によっては中止する場合もあることを了承して借りていただく。市民公園の青空市では、1日でほとんどの芝生が駄目になってしまったので、裁量権をある程度事務局に持っていただくような形がいいのではないかと。
事務局	武蔵野プレイス前の芝生の広場ではだいぶ苦労したので、参考にして芝生を生かせるような活用をしていきたい。
2. (2) 食品ロス削減の取組について	
事務局	資料2について説明。2頁および3頁については環境省の資料より抜粋。食品ロスについて、武蔵野市としても大きな課題として認識している。環境啓発施設として、SDGs 達成への貢献を掲げており、食品ロス削減の取組を広げるための行動を踏み出すところである。 第六期長期計画では、「エコプラザ(仮称)を中心とした環境啓発の推進」において「持続可能な社会を目指すことで、環境分野の側面からSDGsの達成に貢献する」としており、また、「環境啓発における市民活動との連携」においては「食品ロスといった身近な問題とともに(中略)積極的に取り組めるような啓発を行う」としている。武蔵野市の長期計画に基づき取組を進めていく。 具体的には、武蔵野市の環境部、健康福祉部、子ども家庭部、そして武蔵野市民社会福祉協議会、活動団体が連携して進めていく。実際の活動は社会福祉協議会と団体が行うが、市としては食品の保管庫の購入、設置場所の提供を行う。活動開始期は現在調整中だが、今後も進捗の報告する。
副委員長	組織的なこと、物理的なことは、そのままやっていただければいいと思う。 エコ re ゾートなら、食べ物を大事にする心、個人の生活の規範等に関連するのではないかと。去年コロナで学校も学童もなくなったとき、孫の面倒を見ながらベランダで家庭菜園を始めた。すると、自分で作ったものは大事にしようと思うようになった。孫も同じで、ちょっと傷があると「食べない」と言っていたのが、自分で作ったものだと愛着が湧くのか、「すごいおいしい」と大事にしている。

	<p>これがほかの食べ物にも波及して、食べ物は大事なんだ、作るのは大変なんだというのが分かってくる。</p> <p>こういう活動を推奨したり、いろいろな動きをエコ re ゾートで紹介すると、市民のいろいろなノウハウ等が行き渡っていいのではないか。</p>
委員長	<p>大事な指摘だと思う。</p> <p>エコ re ゾートは施設ありきで貸し出しするのではなく、食品の大切さを学んでいただくことをしたほうがよいのではないかと指摘してきた。</p> <p>武蔵野市では、個々の方が出す家庭系ごみは 700 グラムを切っていて、さらに 600 グラムにしていこうという運動をしている。そこをより切り込んでいくためには、もう少し深い学び、副委員長からご提案があったようなことも含めてやっていただきたい。</p> <p>エコ re ゾートでまず食・衣・住（食物・被服・住居）の三つから啓発活動を積み重ねていただくといいのではないか。</p> <p>在宅が増えたためか、皆さんが購入するものが増え、よその地域で生産したものを無駄にしているかもしれない。そういうつながりの中での発想、思考回路もはぐくみながら取り組まないといけないのではないか。</p>
委員	<p>私の子どもの頃は、戦争が終わったばかりで食べ物がなかった。今は飽食の時代で、ものすごく余っている。テレビでは大食い競争的なものをやっていて、食べ物に対する大事さが欠けている。まずは家庭のしつけが原点ではないかなと思う。</p> <p>その家庭でも、賞味期限を到達するとすぐ捨てる。あまりにも気にし過ぎて、食品ロスになってしまうことも見受けられる。買いだめをしないことも一つの方法ではないか。</p> <p>最近孫と生活しているが、お母さんが子どもの食べ方を管理しているので食べ残さない。「農家の方が 1 年かけてお米を作るのだから、ご飯は食べ残してはいけない」「魚だって命。魚の命をいただくんだ」と。若い人たちが食べ物を大事にする動きは、そういう話の中から生まれることも大きいのではないか。</p> <p>学校の PTA の動き、学区・コミュニティの動きなどの面でできることはもっとアピールしたり、見直すというやり方も、一つではないかと思う。</p>
委員	<p>食品ロスの数値がどのくらいかというのが分からない。数値目標のようなものは設定されているのか。</p>
事務局	<p>国では「2000 年度比で 2030 年までに食品ロスの量を半減させる」「食品ロスの問題を認知する、削減に取り組む消費者の割合を 80% とする」としている。</p>
委員	<p>2 ページの下から 2 段目に「燃料が使われ、温暖化に寄与する」と書いてある。「寄与する」とは「役に立つ」という意味で、そんなことはないと思う。温暖化を「促進する」とか「推進する」という言葉遣いではないか。「寄与する」は「貢献する」ような感じで、ちょっと違うような気がする。</p>

委員長	これは環境省の資料で、武蔵野市の意見ではない。
委員	<p>武蔵境に住んでいるが、民間の貸農園で野菜を育てて、今年で4年、5年目になる。先ほど副委員長が言っていたが、野菜は形がきれいなわけではない。いびつで当たり前というのは畑をやって初めて知った。二またに分かれていたり、大き過ぎたりする規格外が普通。農業における食品ロス対策は、「形のいいものが野菜なのではない」というところからだと思う。市内の農家さんは形の悪いものをどうやって破棄しているのか、流通しない野菜はどうなるのかといったことを取り上げることが農業を支えることにもなるのではないか。</p> <p>武蔵野市としては、この食品ロスと、もう一つ取り組んでいる緑・農の部分も含め、JAさん、市内の農家さんもタッグを組んで取り組んでみてはどうか。</p>
委員長	<p>よく農家の屋台で買うが、100円でこんなにいいのかなと思う。こういうことを共有する場面としてエコreゾートを活用して連携を取り、学びも展開できたらいいと思う。</p> <p>今、オリンピックであるが、北京の大学に集中講義で出掛けて、北京オリンピックができるかどうかがとても疑問に思った。農家さんが農業をやめさせられて水を確保していたが、一度農業をやめてしまえばなかなかもう一度はできない。こういうことも食品ロスとつながっているということを考え、より一歩進んだ深い学びをエコreゾートで啓発していただいた上で、皆さんが納得して進んでいくということが大事でないかと思う。</p>
委員	<p>保育園などではクリーンむさしのを推進する会の方に協力をしていただいて、給食の残さの生ごみから土を作る活動をしている。園だけでは難しいところ、外部の有識者や活動をされている方々とのご縁で活動ができているが、市内の他の幼稚園・保育園などの施設でも、ノウハウを知っていて実際に協力してくださる方がいると取り組みやすいと思う。</p> <p>委員の話にも家庭の教育が大事ということがあったが、親世代も経験が乏しいこともあり、家庭だけで全てを賄うということは難しい。保育園・幼稚園や小学校・学童がその機能を担いながら、市民の力のある方々を巻き込んでいくことが求められる。エコreゾートでまず率先した取り組みを行い、外部に対して知識を分け与えることを担ってくれる方が増えると、市全体として取り組んでいくことにもなる。エコreゾートがその情報発信の拠点となり、人材育成と派遣の機能を持るといいと思う。</p> <p>今東京には、全国の農家さんの手間暇掛けた規格内とされる正規品の野菜・果物だけが届いている状態がほとんどだと思う。規格外品などの生の話も、これからエコreゾートで聞けるといいと思う。</p>
委員長	<p>キーワードとしてはSDGsでいう12番、使う側の責任。委員から賞味期限のお話があったが、日本人は消費期限・賞味期限に厳し過ぎると思う。また、農家の屋台の野菜の活動など、多角的に切り込んでいけるテーマなので、活動団体等にも頑張ってもらっていただければと思う。</p>

事務局	エコreゾートで何を担っていくかは、今後ともご意見をいただきながら明確にその位置付けを考えていきたい。
委員長	エコreゾートのほうでも掲示したり、啓発のビラを貼っていただいて進めたい。
2. (3) 施設評価に基礎とするアンケート調査について	
事務局	資料3について説明。利用アンケート WEB 用と、来館者用を作成している。エコreゾートでは、環境について身近にあることから気付き、考え、環境配慮行動へと結びつき、それが市内全域に広がって、最終的に SDGs の達成に貢献していく、といった環境啓発機能を発揮しようとしている。このアンケートでは、経年的に私たちの取組がどう行動変容につながったのかを見ていき、施設の評価に繋げることを目的としている。回答方法として、来館者用は実際に施設に来た人に回答を求め、WEB 用は業者への委託を予定している。予算の都合上、調査対象を広げて回答を求めていくのは次年度以降となる。 個別の設問については説明を割愛するが、施設の目的として SDGs の達成貢献を掲げており回答項目にもそれを反映している。また、WEB 用と来館者用では、後半部分が大きく違っている。
委員	紛らわしくないように、クエスチョンの後ろの SDGs に関するかつこ書きを、設問の後ろに回してはしてはどうか。
委員長	並行して書くと煩わしい。 自分がエコreゾートの事業に参加したり、仲間と一緒に活動したことがあるという内容が入っていない。活動をしている人は厳しい意見やこだわりもあると思うので、そういったことを書く項目があってもいいのかと思う
副委員長	一般的に、評価は大事であるとされてはいるが、評価を自己目的化しないほうがいい。アンケートや評価に時間を割くのだったら、限られた資源なので内容を充実させるほうに努力を集中したほうがいいと思う。始まったばかりなので、評価の枠組みだけリジットに作ってもしょうがないと思う。
委員長	昔のエコプラザの検討会で、アンケートであまり厳しく評価しないほうがいいという意見が出た。今はコロナ禍でなかなか活動ができてないので勘案すべきというご意見かと思う。ダイナミックに進歩していくことがコンセプトに入っていたと思うので、その辺を踏まえていけたら良い。以前、ポートフォリオでの評価というご意見もあったので、もう一度考えてはどうか。 委員の土づくりに話を聞いて、ロシア民話の絵本の『大きなかぶ』を思い出した。土の残さなどをたくさん入れて、かぶは大きくなる。抜けないので、みんなで引っ張る。ネズミのしっぽがミミズだったりする絵本もあって、そういうところも子どもと確認しながら読んでいけば、より印象に残るのではないか。福島で支援をするときは、そういう確認を絵本ですることをお伝えしている。『はらぺこあおむし』も面白い取り組みだと思う。
3 報告事項	

事務局	資料4について説明。秋に実施予定の環境フェスタだが、今年度は実地で行う形式と、オンラインで行う形式のハイブリット型での開催を予定している。3, 4 ページ目については現在は案段階だが、今後事業者と調整の上内容は変更していく。
委員	この環境フェスタでは、地域活動をやっているのので去年は2団体ほど出した団体に関わった。オンラインだけということもあり、市民の方がどう参加して、どういう結果になったかを、主催者も参加した側もあまり実感なく終わってしまったので、今回はどういう形になるのか。やはり対面式があるのは楽しみである。 この企画案では、この施設について「子ども」というキーワードが出ていていると思うが、参加者側だけになっている。例えば、小学校高学年や中学生ぐらいのお子さんがレポートをする。子どもに来てもらうというより、子どもが参加するイメージにすると、釣られて親も来るのではないか。子どもから大人に派生させるような概念もあっていいし、もっと子育て世代も盛り上がると思う。
委員長	とても大事な視点だと思う。大野田の小学校がやったポスターはクリーンセンターのことで、「絶対見てね」というレポートを小学生がしていた。ぜひ反映させていただきたい。
事務局	資料5について説明。
事務局	環境啓発事業費補助金の応募状況について報告。7月に募集した第I期では、1件の応募があった。
事務局	資料8について説明。環境の学校連続講座、環境の学校 Green プロジェクトの応募について説明。
委員	公開講座はどこでやるのか。今、旧事務棟のホールやカフェスペースは結構いろいろな人と混在して、音響が響いて聞こえないことがある。
事務局	プラットホームで開催する予定である。
委員	プラットホームのほうが音は残響しないので良い。その辺の対策もしながら考えていかなければと思う。
事務局	市関連事業について説明。市役所本庁舎が工事の関係で、例年本庁舎ロビーで行っていた展示事業等がエコ re ゾートにおいて開催される予定。具体的には、11 月後半に平和の記念事業のパネル展示、及び菊花展がエコ re ゾートで開催される予定である。また、例年の開催場所がワクチン接種会場をなった事業もエコ re ゾートでの開催検討がされている。
委員長	これはやむを得ない。
事務局	資料9について説明。第2期運営会議は前期同様、2年間で10回程度を目途に考えている。主な議題としては、施設の運営についての議論を深め、施設の評価、利用の方法、サポーター事業について、といったことを議題に予定している。第2回の開催は10月ごろ、社会情勢を見ながら、管外への研修またはオンラインの会議開催を検討している。
委員長	ありがとうございました。